

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



町田新産業創造センターに望むこと

第3定例会の一般質問で、創立10年を迎えた「町田新産業創造センター」の在り方に関して、地元貢献をどのように果たしているかを尋ねました。質問は次の3点でした。

- ① 入居者のその後は把握しているか
- ② 入居者に対して、その後の地元貢献を求める制度はあるか
- ③ その後の地元貢献を具体的に求めるべきではないか

「町田新産業創造センター」の募集要項の中には、知己貢献は入っておらず、新規産業を興す支援するという点に留まっていました。以前、台東区のインキュベーター施設である「台東デザイナーズビレッジ」(2004年より設置スタートし、現在に至る)は、元入居者の動向を把握し、施設の周りに開設した店舗、事業所の展開を捉え、ネットワーク化していることを紹介しましたが、その後、町田市職員が視察に向かったことの答弁が今回ありました。今回の質問で、この施設の修了者が現在の入居者に対して、アドバイザー役を買って出る人材が相次いで出てくるという段階であることがわかりました。今後はそのネットワークの体制づくりを求めました。



不登校と民間教育機関との連携を求める

第3定例会の一般質問の一つに、不登校の問題を取り上げました。今期、4名の議員が不登校を尋ねました。私の質問では、その人数、小学校273人、中学校601人、合計874人を明らかにしましたが、保健室や多目的室などの教室外登校は含まれていません。

写真は最近鑑賞した、ゆるかわふう展覧会



近年、町田市中心部に中高一貫のN高校、N中等部という学校が出来ていますが、N高校は正規の高校とされていますが、そのN中等部の方は正規とされず、いずれかの中学校に籍を置く扱いとされています。一方で、町田市教育委員会はそれらと同等のフリースクールと連絡会を組織していますが、そのN中等部や、町田駅そばにある別の中等部などとはその連絡体制を作っていませんでした。私は、今回の質問でその改善を求めましたが、教育委員会は頑なでした。学校教育の中では、すでに学校に通わないでもオンライン教材で学ぶ方法も容認されていますが、N中学部のような中高一貫の新しい取り組みには、相変わらずつき離れた対応を続ける方針でしたが、この点は今後も対応改善を強く求めていきます。

◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
春季の第51期生を募集開始

インターン体験記③矢野 拓

今回は半蔵門にある「福岡県東京事務所」(福岡県が自前の地所を持つ)と都道府県会館内にある、「青森県東京事務所」、2つの事務所に伺いました。

福岡県東京事務所では、概要及び取り組みについて観光分野を中心に「福岡よかもん・よかところプロモーションセンター」の宮本様と藤田様にお話を伺いました。



福岡県に興味がある方を対象に、この事務所では、行政課長、センター員、アンテナレストラン専任部署、企業誘致センターの4つで構成され、行政課長が担う関係省庁との連絡調整や、お話を伺った方々が所属するセンターが担う観光客の誘致や県産品の販路拡大などがあります。行政課長は、情報収集や自らの足で福岡本庁に情報を届けたり要望を発信する役割を、センターでは、県産品や農林水産物をホテルやレストランを個別訪問したり、移住定住の働きかけなどを行い、本県への誘致促進のため日々仕事に励んでいるそうです。



青森県の観光対策は、2つあります。1つめは年に1回行われる観光セミナーです。2つめは年に2回行われるエージェントセールスです。この後者は、旅行商品政策や自らの足で営業所に回る営業活動をされるそうです。

設立の理念をご説明される中で、支店は支店自体が営業活動をしているイメージがあったのですが、青森県の場合、受付のヘルプなど県庁が何から何までを担当し、「支店に手を貸して」とお願いされてから支店が動くという流れがあるとのことで、正直驚きました。

しかし、首都圏と静岡県との催事やデパートとは直接かかわりがあり、県では、観光担当、支店は、物産と支店業務担当との持ち場分けがあるそうなのでシンプルな仕事ばかりなどではないようです。そんな青森県が他の都道府県と違うところを教えてくださいました。それは各所属場所から一人ずつそれぞれの所属に関連したところだけに出向させることです。こうすることで各々がより詳しくお客様に対応できるようになるそうです。

玉川大学4年生 矢野 拓(第51期生)



玉川大学 矢野 拓(第51期生)

最後に私の会社のイメージは、各一人一人にタスクが課され、それをクリアできないと上司に怒られ冷たい視線を送られるものだと思っていました。この事務所を例にすると、現場で会社の名前を背負っていても契約失敗は、優しい目で見られ、取引先から学ぶことも多いと語ってくれました。相手の意向を流したり学んだりすることの大事さを教えてくださいました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年10月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。